

■ 編集だより

編集後記

American Journal of Psychiatry (AJP) はアメリカ精神医学会 (APA) が刊行する世界で最も読まれている精神医学雑誌である。インパクトファクター (IF 値) は 12.52 (2009 年) であり、*MOL PSYCHIATR* (IF=15.05) に次ぎ 2 番目。本年 4 月から AJP に本学会の英文機関誌 *Psychiatry and Clinical Neurosciences* (PCN) の目次案内が掲載されていることにお気づきだろうか？ APA との協定に基づき、AJP に PCN の目次を、逆に PCN に APA が刊行する *J Neuropsychiat Clin Neurosci* の目次が掲載されている。この相談を始めた当初 APA 側は 112 年の歴史と 15000 部の発行部数を有する精神経誌への目次掲載を希望したが、結局のところ PCN に掲載することで落ち着いた。

APA は年間予算約 54 億円、会員 3 万 8 千人の巨大組織であり、上記 2 誌以外にも *Psychiatric Services*, *Psychosomatics*, *Academic Psychiatry*, *Focus*, *Psychiatric News* を刊行しているが、さすがに AJP は主機関誌であり、その内容は充実している。

AJP は、冊子全体を緑色の展望 (Perspectives)、藍色の新知見 (New Research)、赤紫色の連絡 (Communications and Updates) に区分している。緑色は、論説、解説、内省など 2-3 ページの短い読物、1 枚の画像解説の他、治療の実際、症例検討、総説などであり、主として教育的な内容である。藍色部分は他の学会誌と同様 7-8 本の原著論文からなり、この原著の質が AJP の売りであることは間違いない。赤紫色部分は編集者への手紙、書評である。掲載論文のオーディオテープが mp3 を通して販売されていること、掲載論文を読んでオンラインの質問に答えることにより生涯教育の点数が得られる CME に対応していることも特徴である。

精神経誌をどのように改善していくべきかについて、編集会議のたびに議論を重ねている。AJP にならって教育的な内容を充実することは一つの方向であろう。学会誌となった PCN に対応する形で、原著論文は PCN、教育的な内容は精神経誌が担当するのは自然の流れのように思われる。精神経誌の伝統と歴史の重みのために、堅苦しい雑誌から親しみやすい雑誌への脱皮が少々遅れてしまった感じもいなめない。AJP には編集者への手紙が毎号 10 本程度掲載されている。掲載論文に対する反論であったり、擁護する意見であったり、精神医学会の機関誌であればこそその意見が掲載されている。精神経誌にも「会員の声」欄があるが、残念ながら投稿はあまり多くない。専門家としての議論ができる場として精神経誌をもっと活用してほしい。

AJP の書評欄は充実している。APA に送付された書籍の中からいくつかを選び出し役に立つ書評を掲載している。学会誌として偏りのない情報を伝えるためには課題も多いが、精神経誌に書評欄というのも選択肢の一つにあってよい。

PCN は今年第 64 巻を刊行し、アジアのハブとなる精神医学雑誌として順調に成長している。オンライン投稿査読システムの導入により外国からの投稿が急増し、世界的な精神医学雑誌として認知され始めている。最近、アジア発の精神医学雑誌が二つ刊行された。*Asian Journal of Psychiatry* は Asian Federation of Psychiatric Associations の機関誌でエルセビア出版からの刊行。ハーバード大学の M. Keshavan が編集主幹であるが、実際にはメルボルン大学の Russell D'Souza が Managing Editor として仕切っている。2008 年に創刊され年 4 回の刊行。各国の言語で発表された精神医学関係の論文を英語に直して掲載する欄を設けている。*Asia-Pacific Psychiatry* (Wiley-Blackwell) は、Pacific Rim College of Psychiatrists (PRCP) の機関誌として 2009 年に創刊された。シンガポールの Ee Heok Kua が編集主幹、オーストラリアの Edmond Chiu、アメリカの Allan Tasman が編集者として参加している。このような数々の精神医学雑誌の中で精神経誌は独自の貢献を果たしていきたいと思っている。

武田雅俊